

## トンネル部において路線測量を実施しました

路線測量とは、横浜環状北線の道路構造物の設計に活かすため建設予定地の地形や地盤の高さなどを測定するとともに、道路等公有地内に横浜環状北線の区域の目印にする杭を打つために行う測量です。

## 今年度も引き続きトンネル部の用地測量等を進めています

引き続き、トンネル部の用地測量・用地取得（区分地上権の設定）を重点的に進めます。また、用地測量では、境界確認のため立ち会っていただく必要がありますので、ご協力をお願いします。

用地測量とは、皆様方の土地と道路等公有地、隣り合う皆様方同士の土地との境界を確認し、高速道路に必要となる土地の面積を確定するために行う測量です。

高架部につきましては、平成17年度より用地測量を実施する予定です。ただし、工事工程上、先行する必要があるトンネル接続部や、相続の発生など早急の生活再建を図る必要がある場合については、個別に協議させていただきます。



## シールド工法とは

横浜環状北線は、トンネル区間の施工をシールド工法で計画しています。シールド工法とは、シールドマシンと呼ばれる円筒状の掘削機を地盤の崩壊を防ぎながら地中前方に押し出して掘り進み、その後方で鉄筋コンクリート製あるいは鋼製のブロック（セグメント）を積み立てながらトンネルを作る工法です。



完成イメージ図

現在、中央環状新宿線は、この工法で建設を進めています。



## お問い合わせ先

北線の事業全般に関することは  
首都高速道路公団神奈川建設局建設第一部  
調査第一課

TEL 045-439-0731 FAX 045-439-0772  
〒221-0013 横浜市神奈川区新子安1-2-4

北線及び岸谷生麦線（高架部）、長島大竹線、川向線の用地取得に関することは  
首都高速道路公団神奈川建設局総務部  
横浜用地事務所

TEL 045-662-3963～5 FAX 045-662-3967  
〒231-0032 横浜市中区不老町1-6-10

大田神奈川線（馬場地区）、岸谷生麦線、長島大竹線、川向線の事業全般に関することは  
横浜市道路局横浜環状道路調整部事業調整課

TEL 045-671-2780 FAX 045-662-3945  
〒231-0017 横浜市中区港町1-1

「横浜環状北線」のホームページ：<http://www.yokokan-kita.com/>  
<http://www.city.yokohama.jp/me/douro/hashira/kita.html>

# きたせん



## お知らせ

### 平成15年度に現地調査、トンネル部の用地測量・用地取得を実施しました

- ① 環境調査 大気質実測調査、風向風速調査、騒音実測調査を実施しました  
ヨコハマナガゴミムシの生息確認調査を実施しました
- ② 路線測量 トンネル部において完了しました
- ③ 地質調査 全区間にわたり、より詳細な地質調査を実施しました
- ④ 用地測量・用地取得 トンネル部の用地測量・用地取得を実施しました
- ⑤ トンネル施工法の検討 トンネル施工法の検討を行い、トンネル工法について山岳工法区間をシールド工法に変更することにしました

### 今年度も引き続き現地調査、トンネル部の用地測量等を進めています

- ① 工事着手前の環境調査 大気質実測調査、風向風速調査を実施しています
- ② 用地測量・用地取得 トンネル部の用地測量・用地取得（区分地上権の設定）を進めています
- ③ 道路構造物の設計 トンネル部について道路構造物の設計を進めています
- ④ 事後調査報告書の作成 工事着手前の環境調査をとりまとめた「事後調査結果報告書」を作成し、横浜市長に提出します

## 横浜環状北線広報紙「きたせん」を発行

この度、昨年度まで横浜環状北線についてお知らせしてまいりました「横浜環状北線のお知らせ」をリニューアルいたしました。今後は、広報紙「きたせん」をよろしくお願いします。



## 事業の進め方 北線の事業はこのように進めてまいります



# 現地調査を実施しました。その結果を報告します

## A 環境調査

### ● 工事着手前の大気質調査を実施しました

昨年度は、「高速横浜環状北線 環境影響評価」の手続きの一環として、「事後調査計画書」に基づき、2地点で秋季、冬季の大気質調査を実施しました。その結果をお知らせします。なお、今年度は春季、夏季の調査を実施しました。合わせてその結果をお知らせします。

調査地点	調査項目	単位	期間平均値				4季平均値	環境影響評価時の現地調査結果(4季平均値)
			春季	夏季	秋季	冬季		
都筑区川向町(川向ポンプ場)	二酸化窒素	ppm	0.017	0.017	0.028	0.029	0.023	0.026
	一酸化炭素	ppm	0.6	0.4	0.7	0.7	0.6	0.8
	二酸化硫黄	ppm	0.004	0.005	0.005	0.004	0.005	0.006
	浮遊粒子状物質	mg/m <sup>3</sup>	0.034	0.027	0.027	0.024	0.028	-
鶴見区上の宮一丁目(上の宮中学校)	二酸化窒素	ppm	0.014	0.015	0.031	0.031	0.023	0.027
	一酸化炭素	ppm	0.6	0.3	0.6	0.6	0.5	0.7
	二酸化硫黄	ppm	0.005	0.002	0.005	0.003	0.004	0.007
	浮遊粒子状物質	mg/m <sup>3</sup>	0.030	0.032	0.025	0.020	0.027	-



風向風速センサー

調査日時  
 春季調査:平成16年4月16日(金)0:00~平成16年4月22日(木)24:00  
 夏季調査:平成16年7月21日(水)0:00~平成16年7月27日(火)  
 秋季調査:平成15年10月15日(水)0:00~平成15年10月21日(火)24:00  
 冬季調査:平成16年1月14日(水)0:00~平成16年1月20日(火)24:00  
 環境影響評価時の現地調査は平成5年度に行っております

### ● 風向風速調査について

風向風速調査については、鶴見区馬場七丁目、神奈川区子安台一丁目で平成15年9月より1年間の観測を行いました。また、新横浜換気所予定地付近につきましては、平成16年10月より観測中です。

### ● ヨコハマナガゴミムシの生息確認調査を実施しました

横浜環状北線の新横浜出入口付近では、日本の絶滅のおそれのある野生生物の種を記した環境省のレッドリストにおいて、「絶滅危惧1類」に位置づけられているヨコハマナガゴミムシの生息が確認されております。公団では、保全対策を検討するため、専門家による「ヨコハマナガゴミムシ保全対策検討会」を設置しております。

平成15年10月1日~13日にかけて、事後調査計画書に基づきヨコハマナガゴミムシの生息確認調査を行い235個体が確認されました。そのうち河川敷を除いた区域では8個体が確認されました。

今後、調査結果の考察や分析について専門家の意見をいただきながら、保全対策を検討してまいります。



ヨコハマナガゴミムシ

### ● 騒音調査を実施しました

横浜環状北線の沿道における現在の騒音状況を把握するため、騒音調査を実施しました。その結果を遮音壁の設計等に活用します。

測定日時		平成15年11月18日(火)17:00~11月19日(水)17:00		
番号	調査地点	測定高さ(m)	騒音測定結果 LAeq	
			昼間 dB	夜間 dB
1	都筑区折本町	1.2	62	57
		4.0	61	57
		屋上	70	67
2	都筑区川向町①	1.2	67	64
		4.0	68	63
3	都筑区川向町②	1.2	65	54
		4.0	65	54
4	都筑区川向町③	1.2	58	48
		4.0	60	50
5	港北区新羽町①	1.2	55	39
		4.0	53	42
6	港北区新羽町②	1.2	62	55
		4.0	61	55
7	鶴見区馬場七丁目	1.2	58	47
		4.0	58	48
8	神奈川区松見町4丁目	1.2	54	49
		4.0	56	52
9	鶴見区馬場一丁目	1.2	70	66
		4.0	70	66

測定日時		平成15年11月11日(火)17:00~11月12日(水)17:00		
番号	調査地点	測定高さ(m)	騒音測定結果 LAeq	
			昼間 dB	夜間 dB
10	鶴見区岸谷一丁目	1.2	68	65
		4.0	66	63
		屋上	63	59
11	鶴見区生麦一丁目①	1.2	75	76
		4.0	76	76
		1.2	76	76
12	鶴見区生麦一丁目②	4.0	76	75
		屋上	60	58
		1.2	67	64
13	鶴見区生麦一丁目③	4.0	65	62
		3階	67	67
		屋上	64	64
14	鶴見区生麦二丁目	1.2	71	70
		4.0	71	69

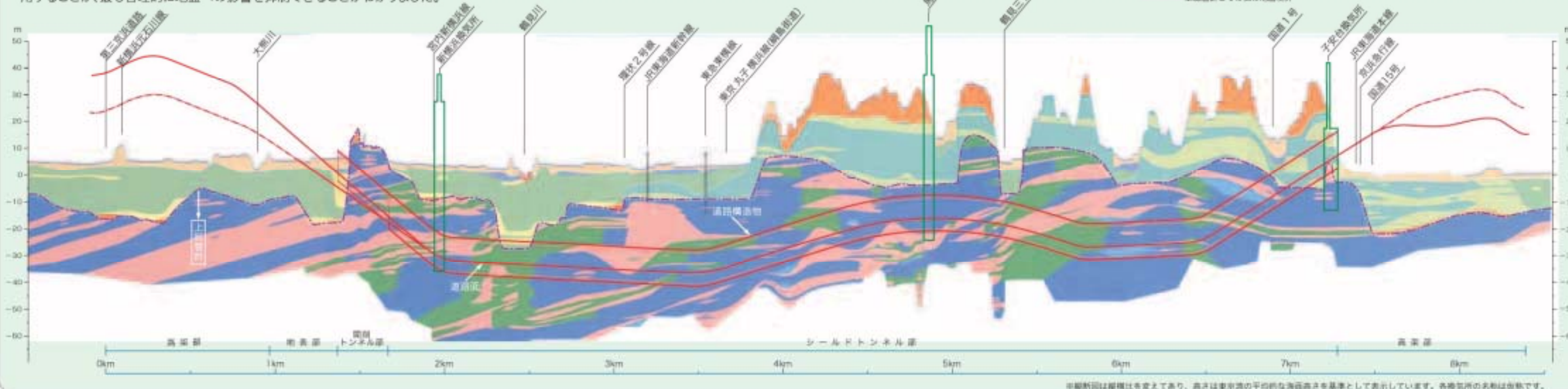
昼間:6時~22時、夜間:22時~6時  
 「高速横浜環状北線環境影響評価書」(平成12年6月 神奈川県)で設定した  
 環境保全目標 昼間:70dB、夜間:65dB

環境影響評価の事後調査を行い、事後調査結果報告書(工事着手前)を作成します  
 「高速横浜環状北線 事後調査計画書」に基づき、工事着手前の調査を実施しています。今後、調査結果をとりまとめた「事後調査結果報告書(工事着手前)」を作成し、横浜市長に提出するとともに、住民の皆様にご覧いただく本紙やホームページ等を活用して公表します。

## B 地質調査とトンネル施工法の検討

### ● 全区間にわたり、より詳細な地質調査を実施しました。

計画路線周辺の地質状況はこうなっています。トンネルは、ほぼ全線にわたり、上総層群という非常に固い地層の中を通過するように計画されています。この上総層群は、超高層ビルやベイブリッジのような長大橋の支持層としても利用されているものです。トンネルの施工法について、この地質調査結果をもとに地下水位低下に対する検討を行った結果、トンネル区間のほぼ全線(一部開削トンネル区間を除く)にわたって密閉型シールドマシンを用いたシールド工法を採用することが、最も合理的に地盤への影響を抑制できることがわかりました。



※断面図は概略図であり、高さは東京湾の平均的な海面高さを基準として表示しています。各換気所の名称は仮称です。